

保谷二小 研究便り

令和6年 2月16日
西東京市立保谷第二小学校
校長 三澤 亘潤
研究推進部主任

研究主題 自ら探究する児童の育成 ～「市民科」単元開発を通して～

～第3回研究授業 1月30日(火)～
5年1・2組 市民科「もしも願いがかなうなら・・・」

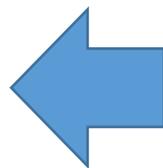
高学年では、地域の人、もの、ことの中から課題を設定し、主体的・対話的に探究して発信しようとする児童の育成を目標に設定し、取り組んでいます。

5年生では、児童の考えたメニューが実際に「めぐみちゃんメニュー」として、市内の店舗にてメニュー化されたことをきっかけにして、市の発展のための取り組みの一つとしてメニュー開発があることに気づき、「自分たちにできること」を探すことから、活動が始まりました。

児童が自ら学習を進める意欲や自分事として課題に取り組めるようになるためには、「本物」に出会うことが重要です。課題解決の過程で、様々な「本物」に出会う場を以下のように設定し、取り組みました。

- (1) 市の発展のために、自分たちもメニュー開発をしたいという思いをもった後、それを一つの会社という形で実現する方法(起業)のイメージを掴むために、(株)インテグリーカルチャーの方から話を聞く場を設けました。
- (2) 起業を進めるための具体的な手順を知るために、武蔵野大学で起業について学んでいる学生(アントレプレナーシップ学部)からアドバイスを受ける場を設けました。

研究授業では、市場調査から考えた条件をもとに思考して仮決定したメニューを、武蔵野大学の学生や教職員、産業振興課の方や地域のお店の方々に紹介しました。その後消費者の立場としての意見を聞き、メニュー開発を再思考する場を設定しました。より深く思考して自分たちの強みを生かしたメニューを決定しようと話し合う様子が見られました。



教職員などに説明するためのプレゼンテーションもグループによって様々な工夫が見られました。写真のような場の設定をしたことで、テンポよく発表することができ、より再思考する時間を多く設けることができました。

現在は、キッチンカーや、市内の実店舗において販売することをめあてとして、「起業」の学習を深めています。販売に繋がった際は、改めてご案内をしますので、ぜひ足を運んでいただくと幸いです。